

HAPPY MILK PROJECT

コープの牛乳で 子どもたちを笑顔に ハッピーミルクプロジェクト

プロジェクトの仕組み

このマークの牛乳
全てが対象です



1. このマークの牛乳をお求めください。
2. 売り上げの一部をユニセフに寄付します。
3. コートジボワール共和国の子どもたちの栄養状態を改善する活動に役立てられます。あわせて、災害などで苦しむアフリカの子どもたちも支援します。

このマークの牛乳を購入すると、その売り上げの一部が子どもたちの栄養改善に役立てられる「ハッピーミルクプロジェクト」。このプロジェクトは2008年度にスタートし、今年度からアフリカ・コートジボワール共和国の子どもたちを支援しています。

シエラレオネ共和国 2014年度～2019年度

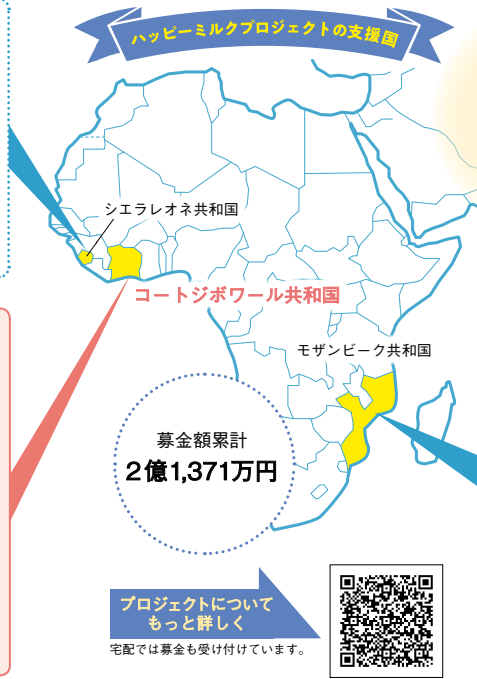
支援の内容と成果



- 子どもたちの栄養状態を調べ、必要な治療を行う人材を増やすため、6年間で200人以上に研修を実施しました。また乳幼児や妊婦・母親の健診・治療ができる保健センターの数が、支援前に比べ5倍に増えました。
- 栄養や育児などの知識を広げ、子どもたちを健全に育てられるよう、村ごとに「母親支援グループ」を作りました。



母親支援グループでは、保健センターの指導を受けた母親が講師を務めることで、知識がより広がることを目指しています。読み書きができない人も多いため、紙芝居や歌で学習します



アフリカ全土

2017年度～

指定した支援国に加え、自然災害や紛争で苦しむマリ共和国やニジェール共和国などのアフリカの子どもたちに、ユニセフ「アフリカ栄養危機緊急募金」を通じて支援を広げています。



© UNICEF_UN0271252_Tremeau

コートジボワール共和国 2020年度～

1 栄養補助食の製造施設を造ります

品質の良い栄養補助食を低コストで製造できる施設を建設します。その栄養補助食を子どもたちに与えることで、栄養改善を進めます。



© UNICEF_UN0206948_Dejongh



© UNICEF_UN061668_Dejongh

2 栄養改善の拠点を設置します

各地にコミュニティ栄養センターを設置し、母親への栄養・育児の知識の普及などに取り組みます。

3 母親たちに栄養・育児の知識を広げます

栄養改善や育児に必要な知識を伝えるため、母親たちに研修を行います。受講者は他の母親に伝える語り手の役割を担います。



© UNICEF_UNI155969

モザンビーク共和国

2008年度～2013年度



支援の内容と成果

- 各地にある保健センターで乳幼児の健診や栄養状態に応じた治療を行うため、知識とスキルを持った人材の育成に取り組みました。
- 「巡回保健員（ボランティア）」を育成し、医療施設が遠くに通えない子どもの病気を発見・簡単な治療を行うことができるようになり、子どもたちの状況が改善しました。



ボランティアによる栄養指導の様子。カロリーや栄養価の高い離乳食作りを母親たちに広めるため、住民から保健員やボランティアとなる人材を育成しました

5歳の誕生日を迎えられない子どもたちがいます。世界で5歳の誕生日を迎えない子どもたちは、年間およそ530万人。その半数以上300万人がアフリカの子どもたちです。その死因の多くは肺炎、下痢など。日本では予防や治療ができる病気で命を失ってしまうのは、多くの子どもが「栄養不良」で、体力がなく免疫力が弱いからです。栄養不良の原因は、食料が十分に得られないだけではありません。栄養や育児に関する知識が不足しているため、偏った食料しか使わなかったり、「赤ちゃんに母乳ではなく水を与える」といった古い慣習が根強く残っていたりするため、成長に必要な栄養素が足りず、多くの子どもたちが栄養不良に陥っているのです。

こうした状況の改善を願い、コープデリグループでは2008年度に「ハッピーミルクプロジェクト」を開始しました。牛乳の売り上げの一部をユニセフに寄付し、子どもたちの栄養改善につなげています。「子ども」「栄養」というキーワードを連想しやすく、多くの家庭で利用されている牛乳を通じて取り組みとすることで、より多くの方に世界の子どもたちが置かれていた状況や食料問題を知っていただきたいと考えています。

これまでアフリカ・モザンビーク共和国、シエラレオネ共和国を支援。今年度からは、コートジボワール共和国を支援します。さらにこれらの支援国に加え、2017年度からは災害などで苦しむアフリカ全土の子どもたちへも支援を広げています。

西アフリカに位置するコートジボワールは、日本と同じくらいの面積を持つ人口2,500万人ほどの国です。カカオやコーヒーの生産で知られていますが、長期にわたった内戦の影響で子どもをめぐめる環境が悪化。約13人に1人の子どもが5歳を迎えることができず、年間7万人もの幼い命が失われているのです。子どもたちを守るためには、こうした状況を1日でも早く改善しなければなりません。

そのためプロジェクトでは、栄養不良を予防・軽減するためにユニセフが行うさまざまなプログラムをサポートしています。コープの牛乳を飲むことが、子どもたちの笑顔につながります。

牛乳を飲むことが、子どもたちへの支援につながります。こうした状況の改善を願い、コープデリグループでは2008年度に「ハッピーミルクプロジェクト」を開始しました。牛乳の売り上げの一部をユニセフに寄付し、子どもたちの栄養改善につなげています。「子ども」「栄養」というキーワードを連想しやすく、多くの家庭で利用されている牛乳を通じて取り組みとすることで、より多くの方に世界の子どもたちが置かれていた状況や食料問題を知っていただきたいと考えています。

これまでアフリカ・モザンビーク共和国、シエラレオネ共和国を支援。今年度からは、コートジボワール共和国を支援します。さらにこれらの支援国に加え、2017年度からは災害などで苦しむアフリカ全土の子どもたちへも支援を広げています。

西アフリカに位置するコートジボワールは、日本と同じくらいの面積を持つ人口2,500万人ほどの国です。カカオやコーヒーの生産で知られていますが、長期にわたった内戦の影響で子どもをめぐめる環境が悪化。約13人に1人の子どもが5歳を迎えることができず、年間7万人もの幼い命が失われているのです。子どもたちを守るためには、こうした状況を1日でも早く改善しなければなりません。

そのためプロジェクトでは、栄養不良を予防・軽減するためにユニセフが行うさまざまなプログラムをサポートしています。コープの牛乳を飲むことが、子どもたちの笑顔につながります。

5歳の誕生日を迎えられない子どもたちがいます。世界で5歳の誕生日を迎えない子どもたちは、年間およそ530万人。その半数以上300万人がアフリカの子どもたちです。その死因の多くは肺炎、下痢など。日本では予防や治療ができる病気で命を失ってしまうのは、多くの子どもが「栄養不良」で、体力がなく免疫力が弱いからです。栄養不良の原因は、食料が十分に得られないだけではありません。栄養や育児に関する知識が不足しているため、偏った食料しか使わなかったり、「赤ちゃんに母乳ではなく水を与える」といった古い慣習が根強く残っていたりするため、成長に必要な栄養素が足りず、多くの子どもたちが栄養不良に陥っているのです。

こうした状況の改善を願い、コープデリグループでは2008年度に「ハッピーミルクプロジェクト」を開始しました。牛乳の売り上げの一部をユニセフに寄付し、子どもたちの栄養改善につなげています。「子ども」「栄養」というキーワードを連想しやすく、多くの家庭で利用されている牛乳を通じて取り組みとすることで、より多くの方に世界の子どもたちが置かれていた状況や食料問題を知っていただきたいと考えています。

これまでアフリカ・モザンビーク共和国、シエラレオネ共和国を支援。今年度からは、コートジボワール共和国を支援します。さらにこれらの支援国に加え、2017年度からは災害などで苦しむアフリカ全土の子どもたちへも支援を広げています。

西アフリカに位置するコートジボワールは、日本と同じくらいの面積を持つ人口2,500万人ほどの国です。カカオやコーヒーの生産で知られていますが、長期にわたった内戦の影響で子どもをめぐめる環境が悪化。約13人に1人の子どもが5歳を迎えることができず、年間7万人もの幼い命が失われているのです。子どもたちを守るためには、こうした状況を1日でも早く改善しなければなりません。

そのためプロジェクトでは、栄養不良を予防・軽減するためにユニセフが行うさまざまなプログラムをサポートしています。コープの牛乳を飲むことが、子どもたちの笑顔につながります。

コープデリグループは、事業と活動を通して「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成を目指しています。



今回の取り組みは、目標2:

飢餓をゼロに

つながっています。